

第1部 消防団

1 大分市消防団

2 基本の礼式

■ 1 - 2 基本の礼式をやってみよう

消防の士気や統制は、服装、姿勢、態度から養われると言われていています。自分の行動を細かい段階で確認することが、平常心を失いがちになる現場活動において、自己の安全を確保する有効な手段であるため、平素からの習慣づけが望まれています。消防団員として、基本となる礼式を身につけましょう。

各個訓練

1 基本の姿勢（号令：「気をつけ」）

団員の動作において基本となる姿勢です。いかなる号令にも直ちに応じられように気力を充実させます。

【男性団員】

あごを引き、前方を直視する

胸を張り、
肩をやや後ろに引く



指を伸ばして並べ、中指をズボンの縫い目にあてる。親指が開かないように意識！



両足先はおおむね60度を開く

両かかとを同一線上にそろえる。

【女性団員】

女性団員は、両足先を45度を開きます。ほかは男性団員と同様です。



両足先はおおむね45度を開く

Check



基本の姿勢 OK!

2 休めの姿勢（号令：「せいれつー休め」「休め」）

休めの姿勢は、一時的に隊員の緊張した姿勢を緩和するために用いられます。

緊張を緩和する姿勢であるとしても、直ちに基本の姿勢に戻るよう規律を保持します。



男性 25 cm 女性 20 cm

「せいれつー休め」の号令で左足を男性はおおむね25 cm、女性はおおむね20 cm左に開くと同時に、手をズボンの中央に重ねて組みます。



手のひらは横に向けて開き、左手の親指と四指で右手の指で右手の四指を軽く握り、両手の親指が交差する。

（「休め」の号令では、手を組んだまま、手の位置を自然に下げます。）

Check 整列休め OK!

3 右（左）向け（号令：「右（左）向けー右（左）」）

右（左）に90度方向転換をする際に用いられます。

（「半ば右（左）向け」は45度方向転換します。）



①左かかとと右つま先をわずかに上げます。

②右かかとと左足親指付根のふくらみで90度右を向きます。

③左かかとを右かかたとに活発に引き付けて、かかとを同一線上にそろえます。



Check 右向け（左向け） OK!

4 後ろ向き（号令：「まわれー右」）

180度回転して後ろに向きを変える際に用いられます。



①右足先を左かかとよりおおむね
5 c m離れるように後方に引きます。

②両かかとを軸にして180度右に回ります。

約5 c m

③右かかとを左かかたとに
活発に引き付けます。

(1) (2) (3) (4)

約5cm

Check
 回れー右 OK!

5 敬礼（号令：「敬礼」「直れ」）

敬礼動作は、いわゆる「おじぎ」です。着帽時の敬礼と脱帽時の敬礼があります。
指揮者の「敬礼」の号令により行い、「直れ」の号令で復します。

【着帽時】

挙手注目の敬礼

右手を上げ、指を伸ばし、
手のひらを少し外側に向け
ます。

ひじをほぼ肩の高さに上げます。



ひとさし指と中指を帽子の
前ひさしの右端にあてます。

保安帽等のひさしのない帽子は、
右手ひとさし指の先端を全額部
右端からおおむね2 c m離れた
位置に上げます。

Check
 着帽時の敬礼 OK!

【脱帽時】

体の上部をおおむね15度前傾して行う。



Check
□

脱帽時の敬礼 OK!

部隊行動

消防活動は、指揮者を中心とした消防部隊が一致団結し、指揮者の命令に従って規律正しく統制のとれた行動をとる必要があります。人員掌握、部隊編成、任務分担、諸注意を与えて直ちに出動するためには、迅速な集合と正確な人員報告を行わなければなりません。まずは、部隊の一員として集合・解散要領を覚えましょう。

1 横隊の集合



① 基本の姿勢をとり右手を垂直に上げた指揮者から「集まれ」の号令がかかると、団員は早急に集合します。

② 右翼分隊長（若しくは身長の高い者）は、指揮者の前方おおむね5mの位置で基本の姿勢をとり、右手を垂直に上げて「基準」と呼称します。「基準」と呼称した後、列員がおおむね3分の1程度が集まったら手を下ろします。

列員は、右翼分隊長の左方にかけて足で身長順に二列横隊となります。



えり部を見ます



かかとが1.1m

- ③ 列員は、各自間隔を揃えるために、自発的に右手を腰をあてて右方へなります。この時、後列の者は、前列の者にならった後に、右方になります。

右翼分隊長および後列右端の者は、左方に頭を向けて整頓が終われば、頭を正面に戻し、それを合図に列員は基本の姿勢をとります。

2 横隊の整頓



- ④ 指揮者から「右へならえ」の号令がかかります。右翼分隊長および後列右端の者は頭を左に、その他の者は、右手を腰にあて、頭を右方に向けます。

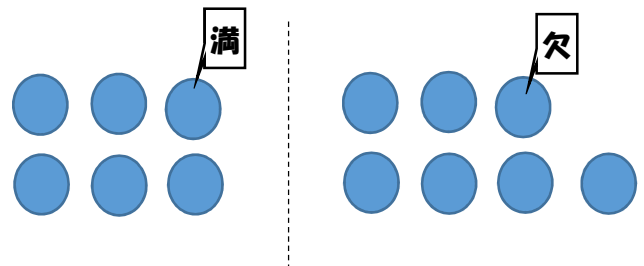
その後、指揮者の「直れ」の号令で基本の姿勢にもどります。

3 団員の確認



「4」・・・し 「7」・・・しち
 「14」・・・じゅうし 「17」・・・じゅうしち

- ⑤ 指揮者から「番号」の号令がかかります。前列右端の者から順次「番号」を呼称します。最終番号後に、後列左端の者は「満」又は、「欠」と呼称します。



4 整列休め



1.5m

- ⑥ 指揮者から「整列休め」の号令がかかれば、整列休めの姿勢をとります。

指揮者は、最右翼から1.5mの右側の位置に移動し、列員と同じ姿勢をとります。

5 上席者（方面隊長・分団長等）への敬礼



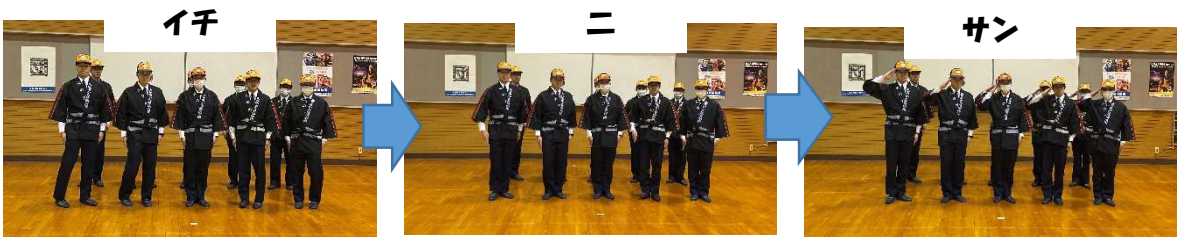
⑦ 上席者が、指揮者の前を通過しようとする際に指揮者から「気をつけ」の号令がかかります。これにより基本の姿勢をとります。

⑧ 指揮者から、「かしら一中」の号令がかかります。列員は、上席者に頭を向け「注目の敬礼」を行います。

「直れ」の号令で基本の姿勢をとります。
※指揮者のみ挙手注目の敬礼です。

上席者が、訓示を述べた後、再度、「かしら一中」の号令がかかります。

6 解散



⑨ 指揮者が指揮位置に立ち「別れ」の号令があったら、「半ば右（左）向け」の要領で、指揮者に身体を向けた後に、挙手注目の敬礼を行います。（※脱帽時は、15度の敬礼です。）

指揮者が答礼後に基本の姿勢をとったら、基本の姿勢にもどり、列員は再度「半ば右（左）向け」の要領で正面を向きます。その後、解散となります。

Check
□ 集合・解散要領 OK!

予令と動令

指揮者が団員に意図を示達する手段として「号令」又は「命令」が用いられます。号令は「予令」と「動令」に分かれます。例えば、「右向けー右」の「右向け」は予令であり、「右」が動令になります。そして、「予令」と「動令」のとの間隔には、適当な間（マ）を置きます。この間（マ）により、予令によって命令された訓練の内容を団員が理解し、次の行動、動作に移らせる準備を整えさせる時間的余裕が与えられます。災害現場では、いつ如何なる命令にも直ちに応じられる心構えが必要です。